

# あおぞらニコニコ通信 2020年 11月号

発行：社会福祉法人三田谷治療教育院  
 児童発達支援センター 明石市立あおぞら園／児童発達支援事業 明石市立きらきら  
 〒674-0092 明石市二見町東二見 1836-1 ふれあいプラザあかし西 2階  
 TEL.078-945-0280 FAX.078-945-0281 http://sandaya.or.jp/aozoraen/

## 浅原奈緒子園長のご挨拶

今年も残りわずかとなってきました。例年はクリスマスやお正月などを心待ちにする時期ですが、今年は新型コロナの影響で、人がたくさん集まって楽しむことが制限されたり、小学校などでは楽しい給食の時間も「なるべくしゃべらないで食べる」ように指導されたり、とても複雑な気持ちでいっぱいになります。これから大きくなっていく子どもたちは、きっと私たちとは違った楽しみ方を見つけていくんだろうと思いますが、このまま人との関係が希薄なものになっていくことで、実際に出会って一緒に楽しむことが少なくなり、人との信頼関係を築いていくことも難しくなっていくかもしれません。

私たち大人は、今までとは違う「三密を避けた生活様式」を子どもたちに教えていながら、みんなが誰かのことを思い合えるあたたかい社会を作っていかなければいけないと思います。私たち職員は、人のぬくもりを感じながら安心して生活ができる環境のなかで子どもたちに成長して欲しいと願っています。これからも、感染症対策等にもより一層努めながらあおぞら園でできることを精一杯やっていきたいと思っています。

あおぞら園での子どもたちの様子などをお伝えしながら保護者のみなさまに安心していただけるよう努めて参りたいと思います。どうぞご理解、ご協力をお願いいたします。



べんぎん組の朝の身支度の様子

## サポートノート講座のご報告～お子様の成長を継続して支援するために～

11月9日（月）に、来年度就園、就学予定のお子様の保護者を対象に、サポートノート講座を行いました。講座を企画した当初はリモートで行う予定でしたが、サポートノートを有効に活用していただくためには、他の保護者の方や職員と情報交換をしながら、実際に書いていただくことが必要と考え、対面での講座に変更させていただきました。感染予防の観点から、例年ように、少人数で話し合いをしながらサポートノートを書くという事は行いませんでしたが、距離を保ちながら他の保護者の方と情報交換をしていただいたり、それぞれが書いたサポートノートを見せあい、より伝わりやすい書き方を知っていたりということではできたと思えました。また、参加者の皆様が熱心にサポートノートを書いていただく中で、具体的な書き方を個々に職員からお話しできたのもよかったと思えました。

サポートノートは書いて、読んでもらえればそれでよいというもではなく、サポートノートを介して、就園、就学先の支援者の方と保護者の方がコミュニケーションを十分に取っていただくことも大切であると思います。今後は、そういった進路先とのコミュニケーションも含め、サポートノート作成のお手伝いをさせて頂けたらと思っています。（山本）



サポートノート講座の様子

## 明石市立あおぞら園 児童発達管理責任者 大向主任～前期を振り返って～

今年度は新型コロナウイルスの影響により登園自粛や分散登園となり、お子様にとっても保護者の方にとっても不安なスタートになったと思います。そんな中でもお子様の送迎にご協力いただいたり行事の開催方法や予定の変更にご協力をいただきありがとうございます。

7月より通常通りの園生活をスタートさせていただきました。お子様たちの安全、健康を守るために定期的な換気、指導員は常時マスク着用、接触の多い遊びや行事は変更するなど大変な面はありましたがとても良い面もありました。自分たちが今まで行っていたお子様への関りや環境を見直す機会となりました。今までは当たり前のようにしていた子どもたちが集まる場面や食事など飲食を伴う場面など、一つ一つの場面を振り返りました。様々な場面を想定することでお子様一人ひとりのことを考え、どのような環境や対応が安全に過ごすことに繋がるのかを改めて考える機会となりました。また、毎日お子様たちの笑顔や笑い声に包まれて療育を行うことができることの有り難さも強く感じています。今後も一人ひとりの成長のお手伝いをさせていただきながら、お子様たちが笑顔で過ごせるように努めていきたいと思っています。



公園でお子様と遊ぶ大向主任

## 明石市立きらきら 児童発達管理責任者 泉川主任～前期を振り返って～

戸惑いの多い春でしたが、夏前には毎週の登園ができるようになりました。登園が再開し、お子様だけでなく、保護者の方も笑顔で通っていただく姿が印象的でした。家庭内だけで過ごしていた期間は本当に大変だったかと思えます。接触の多い遊びや行事は避け、できる範囲での療育や行事となりましたが、その中でも「楽しい!」「初めて!」と喜ぶお子さまたちの姿を見ることができ、大人たちはとてもほっとした気持ちになりました。また、制限の多い中ではありますが、伸び伸び保護者の方やお友だちと遊ぶ姿や成長していく姿を見て、逞しさを感じました。コロナ禍でできない体験はありますが、できることはきっとそれ以上にあると思います。また、新しい療育方法の発見やこれまでの取り組みの見直しのできた貴重な時間だったと思います。後期も行事がたくさんありますので、今しかできないことを保護者の方、お友だちとたくさん経験できるよう取り組んでいきたいと思っています!



きらきら2部のお子様と遊ぶ泉川副主任

## コロナ禍における車椅子ユーザー、聴覚・視覚障害者の現状 ～ユニバーサル情報誌「ひなたぼっこ」～

障害や年齢、男女、国籍等に関わらずみんなが自分の可能性を発揮できる社会「ユニバーサル社会」の実現を目指して特定非営利活動法人明石障がい者地域生活ケアネットワーク（135E ネット）のユニバーサル事業に現在、当法人の理事長飯塚と明石市立あおぞら園・きらきら施設長浅原と私、服部がコアメンバーとして活動しています。

その事業の中で年に2回ユニバーサル社会に特化した内容で、みんなにやさしいお店の紹介や福祉のイベント、福祉事業所紹介を主として「ひなたぼっこ」という情報誌を発行しているのですが、この度、飯塚理事長の発案でいつものお店紹介等ではなく、今の時期に特化した「コロナ禍における障害者の現状」をテーマに情報誌を作成しました。

この情報誌は明石市の小中学校のすべての先生に配布されるということもあって11月21日の神戸新聞の朝刊に上記の記事を掲載していただきました。

今後有益な情報を皆様に届けていきたいと思っています！（服部）



実際の記事